

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0193600111), 法人名 (特定非営利活動法人ほのぼの), 事業所名 (グループホームほのぼの ユニット2), 所在地 (白老郡白老町川沿1丁目553番地-9), 自己評価作成日 (平成30年1月24日), 評価結果市町村受理日 (平成30年3月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設し10年目を迎えようとしているため殆んどの方が3年以上暮らしている。日々の生活にも馴染まれその方のペースに合った役割やお手伝いを介護員と一緒に生きがいをもち、張り合いが持てる充実した毎日が過ごせるようご家族様の協力のもと支援している。また、当事業所は町営住宅街に隣接し自然豊かな環境にあるため地域住民や町内会との交流が有り互いに支え合い、ご家族様、町内会、事業所が一体になるような運営体制が整えるよう努力している。建物は平屋で認知症対応型通所介護を併設し渡り廊下で繋がっているので利用者様同士の交流もある。そちらからの入所の方もおられるが、行き慣れた場所なため不安が無く、ご家族様も「安心です。」と話されている。協力医療機関も近くにあり、主治医の回診、往診を初め緊急時等もすぐに駆けつけて下さり、看護師に於いては、ほぼ毎日、状況によっては一日に数回訪問して下さったりと、医療面でも充実している。関わり合う皆様と、互いに支え合いながらその人らしさを大切にして過ごせる様に今後も支援していきたい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0193600111-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年2月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の玄関ホール、事務所、各ユニットスタッフルームに基本理念とケア理念を見やすい所に展示し共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	当事業所がオープンした時から町内会に加入しており町内会長を中心に行事などにも参加し場所も提供している。常に交流を持って支え合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町が主催している「認知症SOSネットワーク模擬訓練」や「認知症を支える家族の集い」に参加し、経験や知識を活かし活躍の場に活かしている。また、徘徊高齢者捜索の一人に成っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、包括の方を初め町内会長、ご家族様、有識者等、参加して頂き当事業所での取り組みや状況などを話し合い意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設時より細かい事や解らない事など福祉課や社会福祉協議会などに相談し、ご意見やご指導をして頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を立ち上げ定期的に検討会議を開催し、拘束をしないケアを実践するため話し合いをしている。どうしても制限しなければならぬケースに於いては他の対応なども検討したり、多方面から取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・虐待防止委員会が中心となり検討会議を開催している。個人を尊重した対応やスピーチロックなど注意を払っている。また、外部研修や内部研修も参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村が主催の成年後見制度研修に参加したり、それを踏まえて問題視する所や難問事例は町福祉課の下、協力を仰ぎ必要性を検討し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を基に入居説明時の際に重要事項を御家族様に説明し、御理解と納得を得られる様、配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で個々の思いや要望を聞く機会を多く持ち出来るだけ希望を叶える様にし、御家族様からの要望や意見がある場合は話し合いの場を設け良いケアに結び付く様に検討を重ねている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や毎朝の朝礼時に職員の意見や提案を聞き運営に反映する様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して就労できる様な環境や資格取得に向けた支援を行い、個々の努力や実績を考慮し反映される様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に個人の努力を受け止め、開催される研修には出来るだけ多くの職員が参加出来るような状況に努めている。内部研修も常に行い、中途採用者にも研修を行い教育指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設の管理者や職員と常に交流を持ち、行事にも参加させて頂いている。また研修会にも参加したりとサービスの向上に向けての意見を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みの予約や見学に来られた際に、御本人の思いや気持ちを聞きとる時間をもち、要望に添う様に努めている。また、御家族様も安心できる様、思いを聞き信頼関係を築いて行ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様との早い段階での話し合いの中で不安な事や困っている事など、どのように解決をして行く事が御本人や御家族様にとってより良い対応なのかを話し合い信頼関係に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様や御家族様にとって何が必要とされ重要なのかを見極め話し合い優先的に必要としているサービスの順に支援し、向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事に着目し職員と共に支え合いながら行き、人生の先輩として教えを受けその人らしく張りあいのある生活をして頂く様、互いに認め合いながら過ごせる様な関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様と御家族様の橋渡しになる様に日々の様子や出来事を報告したり御家族様も安心出来る様に、ちょこっと便りやほのぼの便りでお知らせしたり、電話連絡したり、絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人や遠方の方の面会時は再度、来訪して頂ける様に心掛けている。ゆっくりと会話ができ、疎遠にならない様に、来訪後も電話や手紙など御本人の思いに協力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの個性の違いを尊重し、支え合える様に話題を吟味しながら提供し、孤立しない様な関係づくりを築きあげる手助けが行える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	提携病院に移った際など、出来る事は協力し御家族様の相談にも乗っている。また、その後お亡くなりになられた方の御家族様ともお手紙や電話などでやりとりをし情報交換や相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望や意向は、日々の生活の中で把握する様に努めている。暮らしの中での会話や様子などで傾聴しながら、思いを探りだしている。困難な方は言動、仕種などから思いを読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様より今までの生活歴を聞き取り参考にて、さらに御本人様との会話の中から傾聴し今までの生活リズムで過ごせるよう経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣や精神状況を把握する様に努め、その日の状態に合わせて無理なく安心できる時間が送れるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様の希望を基にアセスメントを行い、定期的にサービス担当者会議を開催し職員からの意見を聞きその人にとってよりよい暮らしが反映出来るよう介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子は個別に経過記録に記載している。重要事項に於いては業務日誌にも記載し申し送りにて情報の共有に努め常に介護計画を基にサービスの向上に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、一人ひとりの思いやニーズに出来るだけ多く答えていける様に御家族様にも協力を仰ぎながら枠にとらわれる事なく、その人らしさを尊重する様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人それぞれの、体力や力量に合せ地域の行事に参加する機会を出来るだけ多く設けている。また、演芸ボランティアなど地域の来訪者様との交流や関係も深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ主治医とは常に状況の変化を報告できる状況下であり都度、報告をしながら御家族様にも連絡している。受診内容は「医療ノート」に記載し看護師や職員が共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師が毎日来訪し、日常の健康管理に努め何時でも相談に乗ってくれている為、利用者様や御家族様にも安心や信頼を得ている。本人の訴えは必ず伝え指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がスムーズに行える様、協力医療機関にはそれまでの様子が明白になるよう「情報提供書」を作成したり、担当看護師とも連携をとり精神面でもフォローをしている。また、病院と御家族様との橋渡しに成る様に常に連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前に重度化した場合や終末期に於ける対応の話し合いを御家族様と行い方針に同意をお願いしている。お互いに情報の共有は欠かさず事業者としては協力関係に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が行っている救命講習会や緊急時に備えての講習会や訓練を取り入れ事故発生時には、落ち着いた対応が出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による指導のもと、火災訓練を行い設備や使用法を身に付けている。災害時なども迅速で適切な行動が取れるよう取り組んでいる。また、地域の方の協力も頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを大切にするというケア理念を基にプライバシーにも配慮した対応を心掛けている。個人記録も保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の理解力に配慮しながら、傾聴し自己決定を引き出すようにしている。意思表示の困難な方に対しては、行動や表情から読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「明るくゆったりとした生活環境の中で一人ひとりのペースに合ったその人らしさを大切にしてお互いが支え合い認め合いながら過ごせる様支援をおこなう」と言う、ケア理念に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の長い方などに、ほぼ毎日好みの髪形にセットしたり洋服も自分で選べない、季節感が解らない方など、その日の天気や気温に合わせ職員が支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みが変わらないよう利用者様のリクエストなども聞いている。また、お誕生会や行事などには嗜好の料理を提供している。また、その方が出来る事をお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが保てるように食事量や水分量は毎食チェックし記録をしている。カロリー摂取量の不足な方等は主治医に報告し代替品を用意して頂いたり体調管理は欠かさず見逃さないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は欠かさず一人ひとりの口腔ケアを支援している。その人の状態に合ったケアをし本人にも協力して頂いている。また、協力歯科医にも相談しながら対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に添った排泄のパターンをチェックし職員が把握したうえで声掛けや誘導の援助を行うと共にトイレでの排泄が続けられるよう自立に向けた対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操をするなど、体を動かす事に気を付けている。また、栄養士が作成したメニュー表を基に食物繊維に気を配り発酵食品も取り入れ予防している。また、看護師にも指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが御本人様のタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。拒否の強い方に関しては、声掛けや状況を見てそれに合せた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活パターンに合わせて昼寝を自由にして頂いている。また、夜間眠れない時などは飲み物を提供したり、足浴や寄り添って会話をするなど気持ちが落ち着くような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報、受診記録は医療関係記録に綴り職員が共有している。薬に関する細かな事など其の都度、看護師連絡ノートやスタッフ連絡ノートに記載し症状や変化を見逃さない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力や生活歴に合った役割やお手伝いを生活リハビリとしました。お誕生会、行事食など嗜好の料理を提供したり演芸ボランティア等も呼んで楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員の他、御家族様や宗教関係の方など状況に応じた場所や時間に合せなるべく思いを、くみとり協力を仰ぎながら、体調管理に気を付け安心して外出が出来る様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の経済事情や能力・状況に応じ事務所で管理しているが、必要時には対応している。また、常に御本人や御家族様が何時でも把握出来る様に、金銭出納帳に記入し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所やスタッフルームに備え付けの電話が置いてあり希望に応じ使用されている。友人からの年賀状やお手紙も届き支援し、関係が途切れない様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは天井が高いため、上の方にも窓があり、こち良い光が差し込んでいる。そのためホール内は明るさが保たれている。壁には、思い出づくりの、さまざまな写真・お正月の書き初めをはじめとし多様な展示物を飾り工夫し時間が経過しても忘れない様、心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペース内の食卓テーブルは皆様、囲んで会話ができ食事が楽しめる様にしている。また、少し離れた所にテレビ・ソファがあり自由に座っている。気の合う者同士がくつろげるスペースである。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のお部屋には、入居の際に使い慣れた物や馴染みの物をなるべく持参されている。御本人や御家族様と相談の上、居室内の配置や持参する物を決め安心して過ごせる様、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に重視した生活が送れるように入出口にはスロープや玄関他、室内・玄関・トイレなど殆んど手すりが付けられ床や扉にも段差は無い。その方の身体能力に添えるように対応している。		